

令和7年5月27日  
教務部長 三輪 仁

## 令和6(2024)年度 卒業生アンケート結果について

### 【講評】

令和6(2024)年3月卒業生は感染症拡大に伴い社会活動が厳しく制約されていた2021年4月に本学に入学した世代となる。とりわけ入学年度の2021年は断続的に発令される行動制限のもと、講義の多くが遠隔で実施され、大学での友人関係の構築やサークル活動、アルバイトなども大きく制約された状況にあった。その後、行動制限も段階的に緩和され、本学の講義やゼミ活動、サークル活動などの活気が取り戻され、2024年度における本学学生による社会活動はコロナ前を凌駕するレベルにまで達した。こうしたコロナ禍からの本学の再興をけん引してきたのが、本年度卒業生といえるであろう。

本アンケートは、卒業生が本学での学びや様々な活動、教職員とのかかわりを、どのように評価したのかを示すものである。なお、前年の令和5(2023)年度の同アンケートは回収率が低いため参考値として比較の目安として用いた。

本アンケートにおいて回答者は、大学生生活についての3設問、本学の教育を通じて身につけたことについて9設問それぞれに、5. そう思う、4. ややそう思う、3. どちらでもない、2. あまりそう思わない、1. そう思わないの5段階で評価を行っており、集計にあたっては評価を点数換算して回答者平均を算出した。

項目別にみると、12設問全てで回答者平均値が4を切っている。細かくみると、設問3と設問4以外の設問において、「5. そう思う」の回答比率を「4. ややそう思う」が上回っており、各評価ポイントにおいて多くの卒業生から及第点は与えられたものの、最高点には至らなかった。その一方で、回答者平均値が最低の設問4「授業科目の開講曜日・時限は時間割が組みやすいものでしたか」においても3.76と前年（最低値、設問4：3.56）に比べると若干の底上げが見られる。この設問4については、前年の回答結果を受けて学務事務室としても改善に向けて取り組みを始めている課題でもあり、数値の改善からも一定程度の評価が得られたと考える。その他の設問においては、前年からの変化の幅は-0.1～0.1の値域に収まっており、変動は小さいといえる。その中で、設問10「チームワーク力を身につけることができましたか」が前年より-0.07ポイントの3.83となっているのは、大学における交友関係構築やゼミでのチームビルディングに重要な1、2年次にコロナ禍が直撃したこの世代の苦悩を反映しているとも考えられる。

回答結果を踏まえ今後の課題としては、授業において使われるスキルや、授業を通じて身につけられる力を、学生がより認知しやすいような講義運営における工夫が求められているといえる。

自由回答からは、本学での学びや経験への感謝も多くみられ、一定の評価を得られているものと受け止める。そのなかで、「胸を張って卒業できる生徒を増やして欲しいなと感じました。」「大学生生活の中で、何か一つでも自分がこれをやった、出来るようになったと感じることが出来れば学校全

体としても雰囲気が変わると思いました。」といった学生の自発性を促し、チャレンジに対するフォローを高めることで、多くの学生が行動的・自発的になり良い相乗効果をもたらされるのではないかと建設的なエールも寄せられた。その一方で「ほっとかない大学」というフレーズが何を指しているのか分からなかった。コロナ禍である2020年に入学したというのもあるが、苦しく大変な大学生活だった。」という、厳しい指摘もあった。

また、「教科書」の扱い、「単位付与基準」の教員間の違いなどなど、個々の教員での対応に委ねるのでなく大学としての方向性・基準が学生により伝わるようにしていく必要がある。

雪などの荒天時の開講・休講の判断の遅さの指摘も複数みられた。公共交通機関からの情報開示タイミングや補講時間の確保、近隣大学の対応との兼ね合いなども勘案して、毎回難しい判断を余儀なくされるが、比較的遠方より通学する学生も多いこと、バス通学生も多い異な路も考慮していかなければならない。マイカー通学に対する配慮を指摘する声もあるが、学生は原則的に公共交通を利用しての通学を勧奨しており、駐車場の整備は学生サービスの一環であり、荒天時の対応は公共交通利用者を念頭に置いたものとなることの周知を図る必要がある。

自主性を持った学生が増えることを期待する意見選択語学履修が抽選となり困った、教職課程の必修科目と専門必修が被らないようにして欲しかった、といった時間割に対する改善要望も複数みられた。

アンケート回答にはMicrosoft365Formsを用い、卒業の確定する2月下旬よりKIUポータルによる周知が行われているが、卒業確定後にポータルにアクセスする学生も限られるため、最後かつ最大の回収機会は卒業式となっている。前年度は、当日に回答を呼び掛けても個人IDでのログインが必要なため、ID・パスワードを忘れた学生も多くみられた。卒業時アンケートの実施、および一定以上の回収率の達成は「私立大学等改革総合支援事業」における評価項目に設定されており、ポイント取得には50%以上(満点は80%)必要であるため、本年度は回収率向上のため2月の回答受付開始よりログイン不要で回答可能とした。学務事務室からの周知の効果もあり、卒業式前に回答率は50%を超えた。さらに、卒業式後の証書受渡時においても、各ゼミ担当教員の周知協力が徹底され、飛躍的に回答率が高まった。

ただし、ID・パスワード不要での回答であることから同一学生による複数回答を排除できないという弊害も露呈した。このため一部学科では回答率が100%を超えるという事態が生じたが、複数回答者の特定は不可能なため、公開用のデータは卒業式前時点のものを採用した。自由回答についてはすべてを講評の対象としている。

今後回答率80%を目指すためには、回答率の高位維持が前提となるが、複数回答の排除を徹底することが不可避の課題となっている。「授業アンケート」のように、最終ゼミ時にログイン有で実施するのも一策であるが、現代ビジネス学部「卒業研究」を例にとっても個々の指導が佳境を迎え周知に手が回らないことも想起される。今年度の卒業式後の教員による周知への協力体制が維持されるのであれば、卒業式のみでの実施でもかなり高い回答率が得られうと思われるが、式欠席者も一定数に発生することも考慮しなければならない。回答率80%を目指すためには、周知面だけでなく一人一回答の徹底も図る必要がある。

【参考 2024年度と2023年度の数値の比較】

令和6(2024)年度 卒業生アンケート結果

	法律	地域経済	国際社会	国際関係	総計
卒業者	114	207	76	1	398
回答者	50	116	35	0	201
回答率	43.9%	56.0%	46.1%	0.0%	50.5%

	設問	2024	2023	増減ポイント
設問2	大学生活を通じて期待した教育は受けられましたか	3.85	3.77	0.08
設問3	履修や授業について教員や職員に相談することができましたか	3.97	3.95	0.01
設問4	授業科目の開講曜日・時限は時間割が組みやすいものでしたか	3.76	3.56	0.19
設問5	幅広い教養を身につけることができましたか	3.92	3.86	0.05
設問6	専門的知識と技術を身につけることができましたか	3.83	3.82	0.01
設問7	論理的に考える能力を身につけることができましたか	3.97	3.95	0.02
設問8	課題を発見し解決する能力を身につけることができましたか	3.99	3.98	0.00
設問9	積極的に関心をもち、行動する能力を身につけることができましたか	3.98	3.98	△ 0.00
設問10	チームワーク力を身につけることができましたか	3.83	3.90	△ 0.07
設問11	必要な情報の収集と的確な整理・分析をする能力を身につけることができましたか	3.93	4.00	△ 0.07
設問12	コミュニケーション能力を身につけることができましたか	3.96	3.93	0.03

5. そう思う 4. ややそう思う 3. どちらでもない 2. あまりそう思わない 1. そう思わない